

令和4年度 第1回亀山市図書館協議会 会議録

日時 令和5年2月20日(月) 午後2時から午後4時まで

場所 亀山市立図書館1階 多目的室

出席委員
岡野 裕行委員
井戸本 吉紀委員
稲ヶ部 明香委員
下重 智子委員
横山 正委員
原 美津子委員
田中 愛子委員
川辺 一弘委員
服部 しづ子委員

欠席委員 川口 恭子委員

事務局
亀山市教育委員会
教育部長 亀山 隆
図書館 館長 井上 香代子
図書館 主幹 服部 由美
図書館 主幹 山川 美香
図書館 主査 佐々木 孝英
図書館 主事(司書) 天野 史菜

■開会

【事務局】 第1回亀山市図書館協議会を開催。配布資料の確認を行う。

1. 委員の委嘱

各委員に委嘱状を交付。
委員の自己紹介を受ける。

2. 教育長あいさつ

3. 会長、副会長の選任について

【事務局】 委員の過半数の出席により、本協議会は成立する。
会長が決まるまでの間、教育長を仮議長として進行させていただく。

【一同】 異議なし

- 【教育長】 会長、副会長の選出を行う。委員の互選によるが、推薦、立候補がない場合、事務局案を提示させていただく。(推薦、立候補なし)
- 【事務局】 岡野委員に会長を、井戸本委員に副会長をお願いしたい。
- 【一同】 異議なし。
- 【教育長】 事務局案を採用する。進行を岡野委員に交代する。
皇學館大学文学部で司書課程の担当をしている。
- 【岡野会長】 学外活動として、ビブリオバトル普及委員会の代表理事を長く務めていた。亀山市の図書館振興、読書活動の振興に力を発揮できればと思っている。

4. 報告事項

(1) 亀山市立図書館の開館経緯について

- 【事務局】 事務局より説明
- 【井戸本副会長】 窓口で2万人突破との表示があったが、開館からの来館者数を聞きたい。
1月26日午後からのカウントになるが、997名の来館があった。1月中は5日開館し、7,103人来館いただいている。2月4日には10,000人を突破、9日には15,000人、13日には20,000人、19日には25,000人を超えている。
一日平均1,200人、土日は多く、平日は少ない。
- 【川辺委員】 旧館の時と比べてはどうか
- 【事務局】 4月から8月になるが、一日平均240人であり、約5倍の入館者となっている。

(2) 各種計画について

- 【事務局】 事務局より説明
- 【井戸本副会長】 蔵書計画を読んだ感想である。
6p◆10代を中心としたヤングアダルト世代に向けた資料について、マンガを収集すると断言している。他の図書館の収集方針をあまり見ていないが、マンガを集めると断言している図書館は、今はどうか分からないが昔はそんなになかった。いいなと思っている。自分の図書館でも、『はたらく細胞』、環境問題を考える『風の谷のナウシカ』、地動説の学者を紹介している『チ』など非常に好評で、そこから新しい本とか知識に結びつくので、積極的に集めるのはいいことだと思う。
◆地域を知る資料について、大事なことだと思う。県立図書館や国会図書館が集められる資料ではない。地域しか持っていない情報である。無理のない範囲で集めていただきたい。例えば、まち協の作っている通信が10年分たまったら製本化するなどすることが大事。滋賀県の愛知川図書館では、自治会報を製本して本にする事業を行った。本になったら、自治会だよりが立派になったことに刺激を受けて、その自治会やまち協が頑張るだけでなく、隣の自治会が自治会だよりを作り始めたという話がある。地域を知る資料、ここにしかない情報を集めることを頑張してほしい。

マンガ資料については、日本のクールジャパン戦略のひとつでもある。1階は特に市民がたくさん来ていただいて交流をする場で、少々会話が弾んでもいい空間でよいのではないかと考えている。駅前であり、駅の待ち時間にも読める。マンガは、読者層が広く親しみやすいものではないかという考え方である。若年層の読書活動の取っ掛かりはマンガであってもよいのではないかと考えている。内規として、マンガ収集保存基準を設けている。以前に井戸本委員にご教示いただき、『はたらく細胞』や『風の谷のナウシカ』など揃えている。

【事務局】

マンガは貸出ではなく、まずは館内での閲覧のみと考えている。1階でマンガを見ていただき、いろいろな分野に心を弾ませながら2階3階へと進んで行って、いろいろな分野の本を読んでもらいたいと考えている。

地域資料については、横山委員にもご尽力いただいてまちづくり協議会からもご協力をいただいている。すぐには難しいかもしれないが、今後司書や職員が地域に出向き、まちづくり協議会が発行しているニュースレターなどを収集しようと考えている。非常にありがたいお言葉を頂戴したと思っている。今後ともよろしくお願ひしたい。

【原委員】

地域の関連について気づいたこととお話したい。

先日、ヤマトタケルについてのジャンボ絵本の上演を行った。参加した親子連れの親御さんに聞いてもヤマトタケルを知らないと言われた。駅前広場には銅像があり、ヤマトタケルとオトタチバナヒメだといっても知らなかった。子どもが知らないのはわかるが、30代くらいの親の年代も知らない。打ち出しているのに知らない人が多いのは残念。また、民話の人形劇を行ったが、博物館との兼ね合いもあるのかもしれないが、前にヤマトタケルの銅像が立っていて亀山色を出すのであれば資料のコーナーを作ってもよいのではないかと思う。また旧図書館では地域の人が作った民話なども置いてあったが、自分が探せないだけかもしれないが見当たらない。

坂口安吾の展示があるが、興味を持って借りようとして検索をして4階に行ったが、表示板がなく探しづらかった。そのことをカウンターに伝えたら、作っていないと言われた。図書館の打ち出している内容と蔵書の現状が一致していない。せっかくお金をかけてこのような施設ができたのであれば、蔵書を充実してもらいたい。購入予算がなければ、せめて坂口安吾コーナーや江戸川乱歩コーナーなどの表示板を出してもらわないと探せない。4回ほど来ているが、どの作家に対しても蔵書の整備が行き渡っていないと感じた。

【事務局】

ありがとうございます。私どもにとっては耳が痛いことであるが、これが現実である。これまで旧図書館で頑張ってきたが、蔵書に関しては、明確な収集方針について、長い歴史の中で明確に打ち出してきたことはない。今回お示しをしている蔵書計画が、亀山市が初めて作った蔵書計画である。ご指摘いただいたことは、私どもも重々理解しており、今後この計画に沿って積み上げていく必要があると認識している。

ヤマトタケルに関しては、『古事記』『日本書紀』からスタートだと思っており、今後は重点的に揃えていく必要があると思っている。大元になる『古事記』『日本書紀』が古典文学大系や国史大系など原本的なものを含め体系的に集めていく必要があると思っている。ただ市民の認知度という点については、『古事記』『日本書紀』でのヤマトタケルが亀山市の能褒野で亡くなられたという物語と、古い時代からオトタチバナヒメは亀山のお生まれであるという伝承があることを勘案して、地域の特性であるということ発信していく必要があるということで、2階の文化情報プラザで情報発信している。

B&G財団の助成を受け、地域の特筆すべき人物をマンガにして広く知っていただくということで、今年度小学生に向けたヤマトタケルとオトタチバナヒメのマンガを作っている。学校だけではなく図書館でも活用していくことを考えている。こういったことと併せて情報発信を行っていきたいと考えている。

【川辺委員】

地域を知る資料についてであるが、昨日、私も所属しているより良い図書館をめざす会が、蒲生図書館の館長さんをお招きして、東近江市の図書館の取り組みをお聞きする市民ライブラリアン講座を行った。3年前の全国図書館大会で感心した取組で、図書館の司書が中心となって編集発行している「そこら」という雑誌がある。年間1冊で9号まで出ている。その雑誌は図書館の司書が外へ出て行って、市民や事業者の方、文化財等を取材して地域のことを知ってもらう資料として、作られた資料を集めるだけではなく、図書館がきっちりと情報資料を残していく立場で作られている。図書館で編集発行する予算がついている訳ではない。いろいろな部署と連携しながら、福祉を取り上げるのであれば福祉の予算で福祉が関わって作る。編集も当初は司書だけだったが、2年間は高校生ライターが参加したり、他の部署の職員が参加したり、市民がオープンで参加したり多様な編集体制で作っている。すぐにというのは大変かもしれないが、図書館が情報を作っていくという立場で、情報誌発行も視野に入れていただけたらと思う。

【事務局】

ありがとうございます。

図書館から様々な地域情報の発信をしていくということと、一方的なものではなく多方向性を持つ、作り手と発信側が一方向ではないという考え方は、十分考えていきたいと思っている。それらを形にしていくコンテンツとして、本ではないが、2階にある文化情報プラザのコンテンツはそこを意識している。ひみつ本というものを作っているが、亀山に関する様々な地域に関する情報、歴史・自然いろいろな分野に関わるものであるが、そういったものをつくっていかうと思っている。図書館は一つの発信側ではあるが、ベースとなっていくのは、いろいろなところと協働しながら作り上げていくことであり、情報提供を市民の皆さんにお願いして集めていくということも視野に入れて考えている。図書館司書が核になり、どういうところと連携し、自分の足で稼いできて、育てていくという視点である。ひみつ本は差し替えができるようになっているので、新しい情報をどんどん

ん入れ替えていく。そこで得たものは情報としてストックしていくことができるようになっていく。

同じ視点で反対側にあるタッチパネル型のコンテンツには、亀山市に関しての様々な情報が蓄積されて、音声・映像・画像を含めて蓄積されている。データベース型になっており、構築は司書が中心になって担っていく。市民から得られた情報や写真や資料をストックしていく。例えば鉄道のまちであると発信しているので、鉄道に関するいろいろな写真の提供、季節ごとの花のきれいなところ、亀山の魅力、お気に入りの場所など、どんどん情報として提供をしていただく、それらを集積し発信していき、ストックしていく。

これからどういう形で行っていくかになるかと思うが、データを紙媒体に落とし込んでいくかを課題として考えていきたいと思っている。

【井戸本副会長】

サービス実施計画の進捗確認表についての感想である。

親子児童機能の学校についてである。

小中学校の地元の職場体験が復活してきているのではないかと。来てもらう側にも生徒にも刺激になっている。連携して、体験に行った先の職場の人のおすすめの本を聞いて図書館に並べておく。生徒も図書館に来るだろうし、職場体験を行っている側として、自分がおすすめしている本が図書館にあるとわかったら、大人の市民が図書館につながりを感じてもらえるかと思う。

先日、レストランの方に来てもらい高校の家庭科の講演を行ってもらった。おすすめ本を聞いたら食の本かと思ったら、おすすめされたのは詩集だった。驚いたが、その詩集を借りていく生徒がいた。いろんなところでつながるのはいいことなので、司書のおすすめ本もよいが、亀山にいるいろんな大人のいろんなおすすめ本を紹介することで、大人も図書館につながっていくことができたらいい。例えば亀山ブランドの方におすすめ本を聞いて、展示の上に置いたら、亀山ブランドの方も自分の図書館になるのではないかと。そういう形を検討いただけると嬉しい。

デジタル化についての記載があったが、博物館等と連携しているとは思いますが、MIEMUなどいろいろな機材を持っている。機材がないなど困ったらよそに借りることでデジタル化をしていった方がよいと思う。「〇〇のデジタル化をしよう」イベント等にしてもよいのではないかと。

編集や情報発信機能が今後図書館や司書に求められるが、マンパワーが必要となる。継続的な採用を検討いただけるとありがたい。愛知川図書館は年齢層を幅広く採用したと聞いている。人材育成を考えてもらえたらと思う。

【事務局】

職場体験の際のおすすめ本の案はとてもいいことだと思う。また、令和5年度の重点取組方針(案)として、市民からのおすすめ本展示を予定している。

【服部委員】

おすすめ本というキーワードが耳になじんだ。予算があるだろうから、「市民のおすすめ本を市民が提供するシステム」ができれば、協力させていただきたいと思う。

【岡野会長】

サービス実施計画8P の発信機能について、いろいろな他館の事例などを参考にしながら情報発信をしていると思うが、収集だけでなく活用するところまでつなげていくのが図書館の使命である。いろいろな活用方法の話の中で何度も出ているが、情報発信についても、図書館があるいは図書館員が発信するという視点は大事であるが、図書館を活用して市民がという視点、市民の声、市民の考えを表現する場でもあるかと思うので、そのあたりもぜひ考慮してもらえればと思う。

おすすめの本を展示するというのも、いろいろところで、本棚を作るとか一箱図書館とかが行われている。ひと棚だけをその人に貸し出して自由に本棚を作ってもらったり、民間の図書館で増えている。

本の紹介する人の顔が見えてくる取組として、ビブリオバトルがある。ゲームの形をとりながら、動いている展示のようなもので、紹介者のことがセットになって見えてくるから面白い。

いろんな見せ方がある。職場体験をはじめ、いろんなところで図書館の利用者の顔や読書体験が見えてくるのがよい。東近江の例のように情報発信の方法はいろんなやり方があるので検討いただければと思う。

コレクションが弱い、配架の仕方が悪いという点については、蔵書計画も3年前にできたばかりであり、図書館も開館したばかりで、これから育てていくものである。開館して完成ではなくそこからがスタートであり、ようやくスタートラインに立ったところであるので、少しずつより良い方向に変えていけるように、計画を現実の図書館サービスを落としこんでいき、進めてもらえればと思う。

【横山委員】

皆さんの意見を聞き、勉強していきたい。

【川辺委員】

多目的室や文化情報プラザの利用について、図書館で公表されている資料を見てもどうして申請してよいかわからないのでお尋ねしたい。

環境のことで講座を考えているという知人から、多目的室をどうしたら借りられるのかわからない、どうしてイベントをやったのかと問われた。オープニングに関わるボランティア団体のイベントとしての位置付けで行ったと話したところ、計画書をもって話しに行ったら借りられるのかと言っていた。

利用方法について、市民の皆さんに周知できるような形で公開されたほうが良い。そうしないとブラックボックスになる。整備推進委員会に入っていて、貸館形式を取らないと聞いていたのに、いくつかイベントが入っている。それがどうやって決まったかわからない。認知症の講座など、月々定例で決まっているものがあり、どこでそれが決まったのかということになるので、早く市民に公開するべきである。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

多目的室等の利用については、明確にどういったものであったら使えるということ、今のところうたっていないが、貸館的なものは今のところ考えていない。一方でこの場所は賑わいの創出につながるというキーワードも市の考え方にあ

る。図書館を核とした賑わいの創出につながる取り組みを行うことと考えている。認知症の講座は、福祉部局とのコラボ企画の一つでさせていただいているというご理解をいただきたい。

いろいろな企画についてお問い合わせいただく中で、貸館的なものお断りさせていただいている。市の行政部局のどこかとコラボしながら何かを開くなど、図書館を核とする賑わいの創出につながるものであればお受けする方向で考えている。

项目的にこういったものであれば利用できるということをご案内しにくい状況であり、それが課題であると考えている。課題を共通認識していただければありがたい。企画等があるようであればご相談いただければ、対応とどうしたら実現可能となるかを考えていきたい。

【川辺委員】

公表しないと不信が生まれてくる。あそこは使わせてもらえたのに私たちはなぜとなってくる。自分自身も疑問に思っている。福祉部局との連携ならいいのか、市民独自のものでは使えないのか、決定権を図書館が持つのであれば、その基準を明らかにしないとみんなの合意の場にはならない。早く一定方針を文書にして出すべきだと考える。

5. 協議事項

(1) 令和4年度第4四半期・令和5年度の重点取組方針(案)について

【事務局】

事務局説明

【稲ヶ部委員】

新しい図書館となって利用者層の変化があったとのことだが、期待通りでよかったと思う。中高生の利用が多くなったとのことだが、利用の実態はどうか。自習の利用が多いのか、登録して本の貸出も増えているのか。

【事務局】

現在、各学校のテスト期間ということもあり学習利用をしている人は多いが、それだけではなく自動貸出機を使って本を借りている姿も見かける。統計的にどれくらい伸びたかという把握はできていないが、勉強のみの利用ではないと感じている。

【田中委員】

関図書館の調整について、どのような状況か。まち協との取り組みで職員が外向いていくのであれば、人員は大丈夫なのか。案のようになればうれしいが市内のまち協はたくさんあり大変だと思う。

【横山委員】

市内には22のまち協があるが、関は関文化交流センターの中で、でたくさんの方が出入りされている。関図書館については、巡回日数等について市内のまち協を回ってもらい、協議をすることになる。図書館職員に来てもらうなど、いろいろな取り組みを考えてもらっている。本の入れ替えや、紙芝居など子どもから大人まで一緒に楽しめるイベントなどのアイデアを出してもらっている。今後に期待するとともに、まちづくり協議会としても、できるだけ協力したいと考えている。

【事務局】

まち協への巡回について、全部一律ではない。積極的にというところとまだそんなところがあり、地域の事情や考え方が異なる。一斉に全部やるという考え方はしていない。話し合いをさせていただき、こういう時にさせていただきます

よという形で、それぞれの地域にあった形でスタートできればと思っている。例えば、地域でこういったイベントがあるから関連した本を持ってきてほしい、子どもたちが集まる機会があるから読み聞かせやおすすめ本を持ってきてほしい、サロンのようなところで一緒にやっというなどである。積極的に話をさせていただき、どういう風にやっというか組み立てていきたい。

【事務局】

ご心配いただいていた体制的にどうかという点であるが、新しい試みとして、館の日常的な運営、カウンター業務やバックヤードの本の整理については、民間の力を借りて委託という形で進めていく。委託の大きな理由は、館のスタッフのエネルギーを企画面に集中させたいという点である。今は、開館してから日が浅いこともあり、目先の対応に追われているのが事実であるが、館長をはじめ司書の資格を持った職員、司書として採用された職員がいる。先ほどの職員紹介にもあったが、資格を持っている者を配属したのではなく、図書館司書として広く公募をして、全国から集まってきた司書になりたいという人の中から勝ち抜いて採用された職員であり、経験をこれから積んでいく部分はあるが、図書館と一緒に育てていかなければならないと思っている。

本来市の職員が地域との連携、学校との連携、いろいろご提案いただいている企画等について集中的に仕事をする。市がしっかりと責任をもって進めていくという考え方の中で、体制を作っている。

これからやっという部分が多いので、いろいろ試行錯誤しながら亀山市の図書館と地域とのネットワークづくりを組み立てていければと考えている。

【原委員】

今後の希望を込めてお願いしたい。

平日は大人が多いが、日曜はたくさんの親子連れで賑わっていた。館内のイベントについて、広報だけだったので、声をかけに行った。2階にはお父さんがたくさんいたが、Wi-Fi 接続が1時間で短いとの声があった。

イベントの前半ヤマトタケルのジャンボ絵本の読み聞かせ、後半人形劇を行った。3~5歳の年齢の参加者が多く、演目の順番が悪かったのかもしれないが、最初たくさんいた参加者が途中退席された。たまたま図書館に来て、イベントを知り参加したが、駐車時間制限のため退席されたとのこと。時間制限が3時間なら最後まで見てもらえたのではないかな。

また、カーテンを見たかったが、閉じられていて見られなかったとの声もあった。サービスカウンターにいる人は、楽しく気楽に親子連れに声掛けをして、意見や要望を聞いてほしい。

ビブリオバトルの先生がいらっしゃるの、本の紹介はサイネージでの発信もよいが、生の声の発信もお願いしたい。デジタルの発信は新聞や雑誌、テレビなどであふれかえっている。生の声を聞けるビブリオバトルを新しいイベントにしてほしい。本を読みたいと思える企画をぜひお願いしたい。

イベントをすることも考えて地下駐車場の制限時間を考えられたらと思う。

【川辺委員】

フリーWi-Fi も制限がある。オンライン配信をしようとしたが、1時間で切れる。

【事務局】

貴重なご意見を頂戴してありがたいが、開館するだけで精一杯なところがあった。地下駐車場は、制限時間ではなく2時間は無料で減免措置をするということで理解いただいている。フリーWi-Fiについては、1回1時間を2回までと制限を設けさせていただいている。一人の人がかなり重たいデータをずっとやり取りしていると他にも影響を及ぼす。どこまで予算をかけて注力するかを検討し、総務省が推奨する形で収めさせていただいている。駐車場の2時間減免についても、整備推進委員会等の流れの中でたくさんのご意見をいただいて収めている。

今後いろいろなご意見を頂戴し、変更していかなければならない点、辛抱していただかなければならないことも出てくる。そういったところのご意見を賜りながら私たち自身も考え育てていかなければならないと考えている。

現在、お求めいただく答えは持ち合わせていない。委託事業者、清掃事業者を含めたスタッフがー丸となり市民の方々が心地よく来ていただけるような場所にしていきたい。

【原委員】

本を借りてすぐ帰るという図書館だったが、若いご家族にとってのレジャーの一環となったように感じた。図書館に行こうということがレジャーのひとつの選択肢となっている。

【岡野会長】

滞在型の図書館はトレンドのひとつとなっている。

【川辺委員】

中高生でも2階の壁際のあなぐらのようなところに入って本を読んでいる。いいなと思った。

これからいろいろな要望が出てくる。予算がかかるものなど、そこそこの限界を設定しないと無理なことは、はっきり言えばよい。イベント参加など一定の長い時間をゆったりとして過ごしたいなら、無料駐車場に止めて歩いてくるなど市民が協力しないといけない。

地下駐車場を無料にするかという駅利用者との兼ね合いがある。長い議論をして苦勞して考えてきた。議会でも問題になって2時間設定にしたことを変えなければならぬとなるとまたそこは問題となる。

図書館を市民で育てていくという視点は、市民も協力しないといけない。図書館側が打ち出していくべき。

【服部委員】

5年度の重点取組に情報発信機能の強化とある。

館内ツアーや司書のミニ体験はすごく楽しみで、応援したい。何かできることがあれば協力したい。

イベント告知について、有効な方法を検討してほしい。

昨年、12月に文化会館で片山先生の講演があった。主催者側は、人数把握が必要だったからだと思うが、申し込み終了後、主催者からの連絡が全くなかった。申し込んだが忘れる方もあるし、体調を崩される方もある。直前にメール配信をされるなど何らかのフォローがほしい。また、年末という時期的なこともあり、残念ながら参加できなかった方もあったかもしれない。映像で配信がで

できればよかったと思った。

【井戸本委員】

瑞宝軒で流れは変わったか尋ねたところ、ランチのお客さんが増えたとのこと。人の流れが確実に変わったと感じている。

1階2階は騒いでもよいエリアだと自分は知っているが、館内で若干わからない。今までの図書館のイメージだと図書館は静かにするものだと思っているのか、平日に来るとシーンとしている。赤字で書く必要はないが、1階2階にさりげなくここはしゃべってもいいフロアだと書いていただくと、5年度の重点取り組みの子育て世代がより安心して過ごせる。子どもが来て騒いでも、館の外に出たりベランダに出なくていいというのはすごく大きい。階段を上がったところにさりげなくサインの表示があると親子の安心感が変わる。

個人的には少くとも音楽を流してもいいのではと思うが、BGMは人それぞれ感じ方が違うので難しいかもしれない。サインはもう少し強調して表示してもいいのではないか。

館内放送で駐車場の減免は2時間と言っていた。館内放送が可能なのだと思った。

イベント案内は図書館ではなく主催者が喋ればよい。今から2階のフロアで何々があります。当日参加が可能です。お越しく下さいというように放送してもらえればよいのではないか。

【原委員】

放送はしてもらっていた。

【事務局】

動から静へが建物自体のコンセプトで、上に行くにしたがって静かになっていく建築構成となっている。みんなが賑わっている、交流を進めていく、ふれあいの場を作っていくというコンセプトである。

おしゃべりOKは小さく表示はしてあるが、あまり目立っていないのかもしれない。掲示だけではなくいろいろな形で発信をしていきたい。子どもたちが声を出して親を呼び、一緒に本を読むのはいい光景だと思う。そこは大事にしながらおしゃべりしてもよいのだということを発信していきたい。

試みとして、オープニングイベントで1階の文化情報プラザでミニコンサートを開いている。図書館でコンサートはあまりなじみがないが、あえてオープニングに行った。声や音を出していいのだということに対し、インパクトがあればと思った。

3階で静かに本を読む方にとっては少しうるさかったかもしれないが、やかましいから何とかしてくれという声はいただかなかった。特に4階は吹き抜けにはなっているが、階段は別のところに作ってあるのであまり4階には音が響いていなかった。建築自体のコンセプトのだんだん静かになっていくということを、構造上でも担保できた。楽しく利用していただくよう発信していきたい。

【岡野会長】

サインで伝えるだけではなく、周りの人の振る舞いから知るということもある。実際そういう使い方をする人がどんどん増えてきたら賑やかな使われ方になるのではないか。市民が育てていく図書館の使い方になっていく。

【川辺委員】

レファレンスについてである。

亀山市民の多くの方は、図書館のレファレンスがどういうものか知らない。せいぜい読みたい本はどこにあるか、この人の本はあるかで、このレベルはレファレンスとは言わない。

知人が館内の様子を見て、昔といっても昭和の初め頃のことであるが、亀山に映画館があったが、どこにあったか知りたいとレファレンスを申し込んだ。カウンターのレファレンスの仕方がありえない。OPACに映画館の名前を打ち込んで本を検索した。1館の映画館の名前がヒットするわけがない。そこからスタートするのであれば、司書の専門性を疑問に思わざるを得ない。本の検索がうまくいかなかったら関連の棚を見るブラウジングをされると思うが、それもされなかった。

整備推進委員会の議論の中で、業務委託をする理由の中に専門性のある職員をという話があったとすれば、その職員の専門性を疑わざるを得ない。自分であっても、関連する文化芸術関係とか亀山市の資料の中にあるんじゃないかとブラウジングする。そこを業務委託先の方がやるのであれば、きちんとっていかなければならないレベルの問題であり、中身と回答を調べていく必要がある。

知人で鳥と植物に詳しい人は、亀山の図書館ではレファレンスができない。すべて県立図書館に行くと言われた。その人に亀山の図書館を使ってもらおうと思えばレファレンスの力を高めなければならない。

読書活動拠点づくりは、ぜひ協力していい方向に持っていかれたらと思う。

名古屋市の鶴舞中央図書館が地域の方に協力してもらい、「ここにもライブラリー」というものを始めている。ある児童館からスペースがあるから協力すると言われたら300冊くらいの本をそこに持っていき、定期的に司書が行き、貸出や本に触れる場を作っている。

子どもの読書推進は、教育現場にいたのでぜひ充実して欲しい。

田口幹人さんという、東北で、自分で本屋をしていてうまくいなくてたたみ、書店に務めてかなり自分の推す本をうまく売るようになった人が居る。出版業界を守っていく、図書館を応援していく面でも本を読む人口を増やさないとダメ。とっかかりは子どもが本を好きになること。未来図書館研究所の子どもに本っておもしろいよと伝えるプロジェクトをしている。そういう取り組みをやってみたらどうか。

市民からぜひやってほしいとお願いされているイベントがある。

図書館法を読むと、図書館の仕事に読書会開催とある。県立で本を10冊貸してもらえる。図書館で読書会をやるようにしてもらいたい。ライブラリーオブザイヤーで大賞のメディアコスモスでは、市民が立ち上げた読書会が評価されている。市民で立ち上げてよいし、図書館側が主催でもよいので、本に触れる、本を通じて人と交流することを、ビブリオバトルだけでなく検討してもらえたら。

【事務局】

レファレンスの問題は、フェイスブックにも挙げてもらっていたのを拝読している。その通りだと思う。

亀山市の図書館については、レファレンスは非常に弱かった。これは間違いないと思っている。図書館の一番の弱みは何かと問われると、レファレンスについての積み上げがないということ、それらを支えていく地域情報が体系的に収集されていないということがこれまでの図書館では弱かったと思っている。そういったことを含めての重点方針である。

レファレンスに関しては、一定のスキルの積み上げが必要となってくる。スタッフ教育は、市職員側のスタッフがきちんと認識を持っていく。スタッフ研修で言っているのは、文化情報プラザのコンテンツは常に意識して目を通しておいてほしい、こういう情報がここに載っているということのを少なくとも把握しておかなければならない。地域のことを尋ねられたらまずそこから起点となっており、どうい本が参考になるのか示してあるので、きちんと認識してほしいということスタート地点としている。

どういレファレンスをいただいたのかをきちんと蓄積していくことが次にもつながっていく。スタッフの成長と合わせて蓄積していくことと同時に情報として発信していく。少し長い目で見守っていただきたいし、ご指導いただきたい。

【稲ヶ部委員】

図書館内での研修体制はどうい形で行っているか。委託スタッフを含めてされるのか。

【事務局】

今年度については開館したばかりで、来年度はどういった研修方針で進めていくかは、今後詰めていかなければならない。予算のこともあるので今これをやりますとは議会のこともあり言及できないと認識している。県立図書館から案内される研修は委託事業者にも情報共有していきたい。委託事業者からはこうい内容で研修したいということも共有しているので、実現できるように配慮していきたい。委託事業者とは情報共有をキーワードとしている。今後も協調していきたいと思っている。

【下重委員】

2階の静かな部屋のネーミングは、パンフレット等を見ただけでは利用方法がわからない。皆さんが見て使い方がわかるように張り紙をしているのか。

【事務局】

張り紙がたくさんあるとどれをみたらよいかわからないということであえて張り紙はしていない。フロアワーク中にご案内し、少しずつ使っていただいている。

ネーミング的にわかりづらいという点は、どういった名前にしようか悩んだところである。落ち着いた部屋などいろいろな案があったが、しずかな部屋とした。今後なにかしらのメッセージを表示するようにしたい。

【岡野会長】

図書館の貼紙は見た目が良くないことが多いので、議論される場所である。しかしながら伝わっていないと利用者が使いづらいので、周知方法を考えてもらいたい。

【原委員】

使っているかどうかわからないと、ぐずった赤ちゃんがいる時に開けるのは抵抗

がある。使用中の札などがあるとよいとの声を聞いた。

【事務局】

参考にさせていただく。

【岡野会長】

4年度の取組にある「ほんろぐ」とはどんなものか。

【事務局】

読書手帳となる。図書館利用カードをお持ちの小学校6年生までの方を対象に、申し出があれば配布しているもの。窓口で申し出ると手帳に貼れるシールを配布している。また、手書きをしてもらうこともできる。表紙は、おはなしのひろばのカーテンのデザインをしていただいた市内在住の絵本作家コマヤスカンさんのカーテンの図案を3分割しており、3冊集めていただくと図案が完成するようになっている。1冊で80冊分の記録ができる。子どもの読書活動の一助になると思う。

【岡野会長】

新図書館の開館の前からあったのか。市立図書館発行のものか、学校図書館のものか。

【事務局】

新図書館開館後から始めたものであり、市立図書館の発行である。

【原委員】

年齢はいくつからいくつまでか。

【事務局】

小学校6年生までの方である。0歳の方であっても、図書館利用カードをお持ちであれば配布している。

【岡野委員】

子どもの読書活動計画とは別か。

【事務局】

子どもの読書活動計画の29Pに記載している。

【岡野委員】

次に館内見学としているが、時間が押している。このまま続けてよいか。

【事務局】

館内を見学いただいて、ご意見をいただければと考えていたが、一度会議を閉じてから、館内見学は希望される方での対応としたい。

6. その他

【事務局】

次回の協議会の開催予定である。今年度は3月までであるので、今回で終わりとなる。来年度は可能であれば4月下旬から5月上旬頃で実施したいと考えているが、年度替わりでもあるので再度調整したい。どうしても都合のつかない日があればお知らせいただきたい。

県立図書館が月曜休館であり、当館が火曜休館であるため、月・火以外の曜日で開催できればと考えている。

【横山委員】

5月であれば総会などのいろいろな会議の日程が入ってくる。できるだけ早くお知らせいただきたい。

【田中委員】

会議の開始は午後からか。

【事務局】

岡野会長が伊勢から来ていただくので、午後としたい。今回と同じ午後2時からで予定したい。改めて連絡を差し上げ、調整させていただく。

【閉会】

【希望者による館内見学】